

自由論題 4 中国政治の動態

報告 3

謝志海（共愛学園前橋国際大学）

菊池真純（東京大学）

「中国政府主導のチャイナタウン建設計画に関する一考察：アラブ首長国連邦ドバイのドラゴン・マートを事例に」

中国の経済発展と共に、中国資本(チャイナマネー)の対外投資により、近年、政府主導の海外での大規模のチャイナタウン建設計画が頻繁にみられる。

本研究では、2004年にアラブ首長国連邦（以下、UAE）のドバイに開設されたドラゴン・マート（龍城）を事例に取り上げる。ここでは中国政府から総額約 270 億円が投資され、総面積 50 万 m² に約 4000 店の小売店があり、中国製品を扱い、各店舗に中国人従業員が存在している。

本研究では、ドラゴン・マートを事例に、中国の UAE における戦略的投資による政治面・経営面・文化面での狙いと影響、特徴を考察する。まず、①政治面では、中国政府が UAE に投資する政治的戦略・意義、さらに受け入れ側である UAE の思惑を考察する。次に、②経営面において、当該地は、世界に展開する自然発生型のいわゆるチャイナタウンの概念とは大きく異なり、中心市街地から 15km 離れた砂漠の中に孤立する大型ショッピング施設という特徴がある。また各店舗では中国人 1 人とアラブ人 1 人の従業員という配備の完全な協働体制が存在する。また中国人従業員はドラゴン・マート施設内部に居住し、外出はほぼなく、一般的に 2～3 年間の滞在で帰国する者が主流という特徴を有する。政府主導のチャイナタウン建設では、両国間での経営規則はいかなる方法でいかなる意味を持つのか、また彼らを現地に派遣する体制は中国国内でどう構成されているのかを考察する。最後に、③文化面において、ドラゴン・マートは、UAE で中国文化を広めるソフトパワーとしての役割はあるのか、また中国人出稼ぎ労働者の属性、現地での生活実態、価値観、帰国後の将来設計を聞き取り調査によって考察する。

本研究での事例から、中国政府主導によるチャイナタウンの建設・運営の内容を明らかにし、中国資本の海外進出が国際社会でいかなる影響と意味を持ち、またそれと同時に、大型プロジェクトを根底で支える人的資源の存在と実情を明らかにする。